

企業名：日本製紙

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

この統合報告書には日本製紙グループが目指す企業像が 6 ページに細かく示されており、事業活動を通して接続可能な社会の構築に寄与すること、お客様のニーズに的確に応えること、社員が誇りを持って明るく仕事に取り組むこと、安定して利益を生み出し社会に還元するということを目指しているということが理解できる。また、具体的な重要課題や SDGs についても言及があり、この企業の経営の目標及び方向性が理解出来る。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

本レポートでは日本製紙のセグメントごとの強みと今後の戦略について示されており、どのような点を得意としているのかは理解出来たが、それが他者と比べてどのような競争優位性を得ているのかは理解できなかった。その一方で、当グループの、関係会社の多さによる多様なチャネルや知見、経験、ネットワークなどの利点を最大限活用し、新素材を開発できる点は、他者と比べても大きな競争優位性を持っていると理解出来る。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

前述したとおり、日本製紙グループはグループ全体との連携を通して新素材を開発することか競争優位性となっている。当グループはこれを維持、発展していくために営業本部を事業推進本部と位置づけ、ビジネスを構築していくとし、新素材全体の売上向上のための具体的な打ち手として、新素材ごとの部門横断的なプロジェクト制をひき、複数のプロジェクトを並行して推進していくこと、もうひとつはグループ内で足りない技術が出てきた場合のために社外との連携を強化していくことを挙げている。以上の点から、日本製紙グループは競争優位性の維持のための具体的な戦略を持っているため、この競争優位性は持続性があると理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

本レポートでは人的資本に関しての記載が少ない様に感じた。前述したとおり、社員が誇りを持って明るく仕事に取り組むという目標のもと、多様な働き方の実現、多様な人材の活躍、労働安全性の推進を重要課題に考えているということは示されていたが、全て抽象的であり、具体的にどのような価値をこの会社に就職することで得ることができるのかは理解できなかった。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

この報告書は日本製紙グループの目指す目標とそれを実現するための具体的な打ち手については非常に詳しく明記されており、グループ内の各セグメントにおける強みや弱み、またその機会についても十分に理解することができた。しかし、この会社に就職することでどのような人的資本をどのように価値向上させることが出来るのかはあまり詳しく記載されていないようだったので、もっと具体的にどのようなスキルを身につけられるのかや、スキルを身につけるためにどのような機会が従業員に与えられているのかを明記すればもっと充実した報告書になるのではないかと感じた。